法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-28

# Covid-19禍の法学部スポーツ総合演習におけるオンライン授業に関するアンケート結果

MIYOSHI, Eiji / 草山, 太一 / ONISHI, Tomo / 三好, 英次 / 大西, 朋 / KUSAYAMA, Taichi / 伊藤, マモル / ITO, Mamoru

(出版者 / Publisher)
法政大学スポーツ研究センター
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
BULLETIN OF Sports Research Center, HOSEI UNIVERSITY / 法政大学スポーツ研究センター紀要
(巻 / Volume)
39
(開始ページ / Start Page)
21
(終了ページ / End Page)
33
(発行年 / Year)
2021-03-31
(URL)
https://doi.org/10.15002/00026193

法政大学スポーツ研究センター紀要　39. 21-33（2021）

# Covid-19 禍の法学部スポーツ総合演習におけるオンライン授業に関するアンケート結果

# Report of questionnaire on online classes in the seminar on physical exercise of the faculty of Law under Covid-19 pandemic.

伊　藤　マモル（法政大学法学部）
Mamoru Ito
大　西　　朋（帝京大学）
Tomo Onishi
草　山　太　一（帝京大学）
Taichi Kusayama
三　好　英　次（東京国際大学）
Eiji Miyoshi

**要　旨**

本資料では，筆者らが担当する授業を履修した学生を対象として，今後のオンライン授業の可能性を検討するための基礎資料を得ることを目的に，インターネット通信環境やそのための各種デバイスの利用実態，本科目で実施したオンライン授業に対する評価と今後の意向などに関するアンケート形式の調査結果を示した。

キーワード：Covid-19，オンライン授業，通信環境，通信機器，コンディション記録
Key words : Covid-19, Online class, Communication environment, Communication equipment, Changes in physical and feelings

## Ⅰ　はじめに

新型コロナ感染症（Covid-19）が猛威を振るい，多くの大学が 2020 年度の通常の授業運営に多大な支障を来し，オンライン授業への転換を余儀なくされた。法政大学においては卒業式および入学式を中止とし，3 月 23 日の時点で 2020 年度の学事日程を変更するとともに例年開催されてきた学内行事や各種ガイダンスを中止または延期にするなど，感染対策を優先しつつ春学期授業開始に関する最善策が検討された。

その結果，春学期の授業は全てオンライン授業となった。オンライン授業は 4 月 21 日から開始され，法政ポータルサイトの通称 Hoppii から本学の学習支援システム（Learning Management System：LMS）にアクセスし，配布された課題（事前に録画した授業を時間割に合わせて配信する片方向通信ライブ型，学生の都合でいつでも取り組めるオンデマンド型，PDF 資料やその音声解説を収録した動画など）を視聴し，リポートを提出する方式，ZOOM や Webex などの同時双方向ライブ型や片方向ライブ型の授業が展開された。

周知の通り，Covid-19 の感染拡大は 9 月以降の秋学期にも収束せず，文部科学省が 2020 年 8 月 25 日～ 9 月 11 日に行った大学等における後期等の授業の実施状況に関する調査（2020）の結果では，対面授業および遠隔授業を併用すると回答したのは全国の 80.1％であった。関東地域では 329 校中 90.3％が対面授業および遠隔授業を併用するとし，この内の 10.8％がほぼ対面，7.7％が 7 割対面，18.9％が対面授業と遠隔授業がほぼ半々，30.0％が 3 割対面，32.7％がほぼ遠隔と回答していた。この結果は，文部科学省の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況（2020）における 7 月 1 日時点の公立，私立，高専も含めた全体で見た全国の 642 校（60.1％）よりも改善された。

法政大学においても実験・実習科目などを対面形式で行う授業が早い時期から散見されていたものの，大多数の授業はオンライン授業のまま秋学期を終えようとしている（本稿執筆時：2020 年 12 月末）。筆者らが担当している保健体育科目は，身体活動による実習・実技を伴う授業形態であり，まさに三密（密集・密接・密閉）が避けられない。また，ソーシャルディスタンシングを確保して実技・実習を実施するための教場や更衣室の確保は，本学の市ヶ谷校区においては著しく困難であったため，筆者らの担当科目は，春学期同様のオンライン授業を継続せざるを得えなかった。ここに至って，今後の授業の運用は，Covid-19 感染対策を念頭に再構築が求められるのは必然であり，新たな授業形態への転換を具現化するための方略に試行錯誤を重ねなければならないと考えている。

そこで本調査では，授業を履修した学生の意識や態度から Covid-19 または未知なる感染症対策を講じた将来の適切なオンライン授業の参考にすること。そして，今後のオンライン授業の可能性を検討するための基礎資料を得ることを目的に，インターネット通信接続環境とインターネット通信用各種デ

バイスの利用実態，およびオンライン授業に取り組む体制をどの程度整えていたのかなどを探るとともに，オンライン授業に対する評価と今後の意向について，筆者らが担当する本学法学部の保健体育科目を履修した学生を対象にアンケート形式の調査を実施した。

## Ⅱ　調査方法

### 1. 調査対象

市ヶ谷リベラルアーツ科目の必修科目の1つである「スポーツ総合演習（以下，本科目）」の2020年度履修登録者の全員を対象とした。履修登録者数は，春学期408名，秋学期419名の計827名であった。

### 2. 調査期間

調査は，春学期のガイダンス時（2020年5月7日）および最終回授業時（同年7月16日），秋学期ガイダンス時（同年9月24日）および最終回授業時（2021年1月14日）の計4回実施した。

### 3. 調査方法

Google Formを用いて無記名式アンケートを行った。なお，アンケートの依頼文には，アンケートの目的がオンライン授業を検証することであり，回答内容は統計的に扱われ，アンケートで収集した個人情報などを秘匿し，FDやオンラインシステムの再構築に資する資料として共有する場合も個人情報を公表することはなく，成績にも影響しない旨を記載した。

### 4. 回収状況

春学期ガイダンス時回答数（回収率）は411名（100.7%），最終回授業時が377名（92.4%）であった。秋学期のガイダンス時は315名（75.2%），最終回授業時が340名（81.1%）であった。ただし，春学期ガイダンス時の回答数は，本来の履修登録者を超えていた。これは秋学期履修登録者がCovid-19禍で混乱し，本学の履修システムを十分に理解せず，誤って春学期のオンラインガイダンスに出席した可能性が高いことが推察され，加えて回答者が無記名であり履修する学期を特定できなかったため，そのまま集計に加えた。

### 5. 調査対象とした授業内容

#### 5.1　本科目の概要

法学部における本科目の授業は，市ヶ谷校区に配置された他学部と共通の到達目標（身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する）のもと，原則として1年次に履修することになっている。履修者は，同一年度に春学期・秋学期いずれかのみの履修が可能であり，春学期に単位取得ができなかった場合，同一年度の秋学期に再履修することはできない。

#### 5.2　法学部における本科目の授業内容

本科目は半期14回で2単位取得できる演習科目であり，授業内容には各学部の特色がある。法学部では，各時限の履修者を4クラスに分けている。各授業時間は100分であり，1回目は4クラス合同のガイダンスおよび体力測定を実施し，2～13回目までの授業はクラスごとに行われ，最終回は再び合同授業が行われる。2～13回目までの12回の授業は，教員4名が各専門分野の授業を3回ずつ担当し，4つのクラスをリレー形式でローテーションする方式をとっている。

#### 5.3　Covid-19禍において実施した春学期のオンライン授業

春学期は授業開始が5月になったことで授業は10回に減じられ，2019年度まで3回ずつ実施していた各教員による授業は，3回分の授業の質を可能な限り担保することを前提に2回に減じて対応した。各教員が行った70～90分のオンライン授業の概要をa～dに示した。

a：パワーポイントで作成した資料に音声解説を付け，リポート課題を設けた。

b：パワーポイントで作成した資料に文字解説を付け，リポート課題を設けた。

c：パワーポイントで作成した資料のスライドショーを録画し，音声解説をつけリポート課題を設けた。

d：パワーポイントで作成した資料のスライドショーおよび自宅内を想定した実習課題の模範を示すなどのリアルタイムの音声解説をZoomにより録画し，リポート課題を設けた。

これらのオンライン教材およびリポート課題は時間割に合わせて視聴開始できるようにHoppiiのメール機能で学生に周知され，学生の通信環境や学習計画などの都合を配慮し，視聴期間に1週間の猶予を持たせたことからオンデマンド方式の要素をもった授業であった。

#### 5.4　秋学期のオンライン授業

秋学期は14回の授業を実施し，1回目のガイダンス時に実施を計画していた4クラス合同の体力測定を中止したが，各教員の授業は秋学期用の新たな計画に沿って3回ずつ実施できた。秋学期の大きな改善点は，いずれの教員も3回目の授業においてZOOMによる同時双方向ライブ型授業を行ったことである。具体的にはZOOMに備わるブレイクアウトセッション機能を利用したグループワークを実施し，教員と学生相互のメッセージ発信ならびに人間関係構築のためのプラットフォームを提供する場とした。秋学期は，各専門授業を2020年度の授業計画に戻さず，あえてオンライン授業の可能性を模索した。

なお，体調不良を来した3）-cの教員の後任者のオンライン教材の概要は以下の通りである。学生自身の自宅で実施可能な体力測定評価およびその体力の向上に資するトレーニングの実践方法などの模範を示すなどのリアルタイム授業をZOOMにより録画し，リポート課題を設けた。

### 5.5　コンディション記録

オンライン授業のため，通学を含む身体運動量が減少したことに加え，本科目以外の課題が例年と比較し膨大になったことによって，学生には運動不足および精神的な不安や疲労の増加，大学に関する情報やコミュニケーション不足による不安の増加などに陥っていることが本学学生支援相談室の調査（以下，学生相談室調査）により明らかにされた。それらの影響による慢性的な学生の心理的疲弊に加え，履修する学生たちの生活習慣に少なからず混乱が生じていることが懸念された。そこで，学生支援相談室の調査結果に示されたような状態に学生が陥ることを防ぐために，以下の①～③を検討し，コンディション記録を授業課題に加えることにした。すなわち，

①学生の生活習慣を把握することは将来の授業を模索するための有益な資料となり得るかどうか

②①に資する教材として，学生自らが生活習慣の在り方を見直す行動分析課題には何があるのか

③②の課題に取組んだ結果，学生は自らの健康の保持増進行動をポジティブに微調整できる資質を高められるかどうか

これらの観点から，学生の日常生活やその動向から将来の健康行動を左右する問題点を抽出した。そして，学生自らが可能な限り正確で，かつ容易に記録可能な要素をピックアップした。その結果，就寝時間，起床時間，睡眠時間，起床時心拍数，歩数，歩行距離，1 日あたりの消費エネルギー量，充実度の 8 項目を抜粋し，それらの記録を可能な範囲で毎日行うよう指導した。

春学期のオンライン授業課題に追加した 4）および 5）は，春学期に実施した本調査結果を根拠として改善した内容であった。

## Ⅲ　調査結果

### 1. 居住形態および居住地について

本科目の主たる履修者は新入生であったため，Covid-19 禍における外出自粛が要請された状況下において，特に春学期の緊急事態宣言の中で一人孤独に生活していた学生の把握を意図した調査結果が図 1，2，および表 1 である。

### 2. インターネット接続環境およびオンライン授業に用いた各種デバイスの利用実態について

オンライン授業への対応が困難である学生やインターネットを介した資料の送受信を不得意とする学生の実態，およびオンライン授業用に準備した動画資料の視聴・閲覧をどのようなデバイスで行っているのか，さらには春学期に容量制限のないルータ（ポケット Wi-Fi 含む）を所有せず，インターネット接続環境が悪かった学生に大学から無償で貸し出された通信量無制限のルータなどによって，春学期が終わる時点の通信環境が改善されたかどうかなどを把握する意図で行った調査結果が表 2 ～ 5 である。

### 3. オンライン授業の受容について

本学の学習支援システムの機能を検証するとともに，学生自ら Covid-19 の感染対策に資する情報収集状況から危機意識の高さを推測した。また，オンライン授業の課題に要している時間などからオンライン授業による疲労度感を推測した。このようなオンライン授業の可能性や今後の意向などを把握する意図で行った調査結果を図 3 および表 6 ～ 15 に示した。

### 4. オンライン授業に対する評価，満足度，および今後の意向について

本科目に対する評価および満足度をオンライン授業を受けた印象や本科目への取り組み方から推測するとともに，運動不足や精神的不安などの状況を探る意図で行った調査結果を

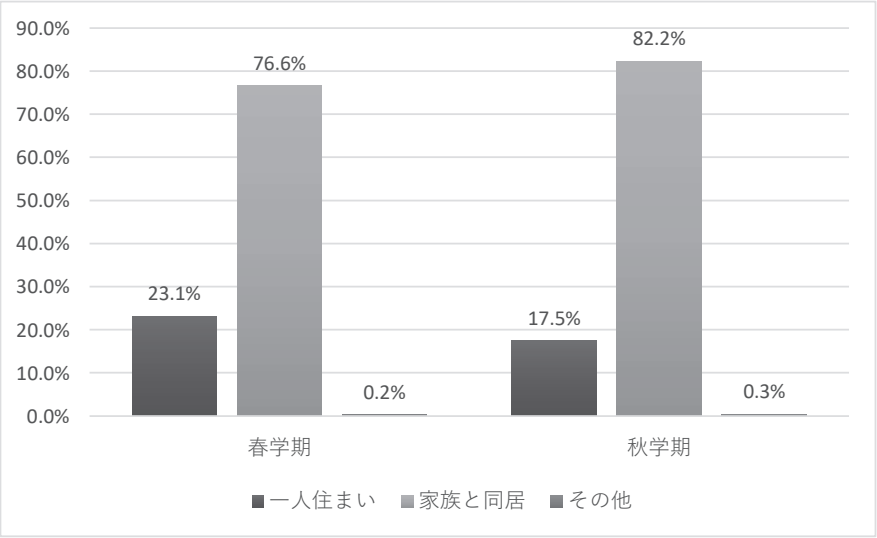


**図 1　学生の同居者**

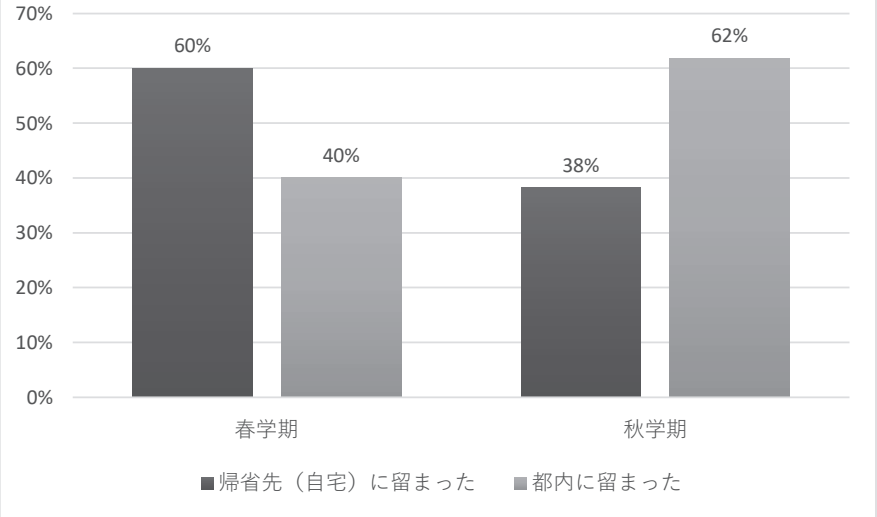


**図２　一人暮らしの学生の居場所**

**表１　春学期における緊急事態宣言前後の同居者**

| | ① 緊急事態宣言前（4 月 7 日以前） | | ② 緊急事態宣言中 | | ③ 外出自粛緩和後（5 月 25 日以降） | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家族と同居 | 333 | 88.3% | 340 | 90.2% | 325 | 86.2% |
| 一人住まい（近隣に友人がいる） | 13 | 3.4% | 12 | 3.2% | 19 | 5.0% |
| 一人住まい（近隣に友人がいない） | 25 | 6.6% | 22 | 5.8% | 28 | 7.4% |
| その他 | 6 | 1.6% | 3 | 0.8% | 5 | 1.3% |
| 合計 | 377 | | 377 | | 377 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表２　春学期ガイダンス時における自宅での通信環境（インターネットへの接続環境）**

| | | |
|---|---|---|
| 通信コストを気にせず、インターネットに接続できる | 347 | 84.4% |
| インターネットに接続できるが、定額で使えるデータに限りがある | 61 | 14.8% |
| 自宅ではインターネットを基本的に使えない | 1 | 0.2% |
| その他 | 2 | 0.5% |
| 合計 | 411 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表３　オンライン授業に使用可能なデバイス（インターネットに接続できる通信機器）**

| | | |
|---|---|---|
| パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれも使える | 313 | 76.2% |
| スマートフォンのみ使える | 10 | 2.4% |
| タブレットのみ使える | 3 | 0.7% |
| パソコンのみ使える | 56 | 13.6% |
| その他 | 29 | 7.1% |
| 合計 | 411 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 4　オンライン授業に使用した主なデバイス（インターネットに接続した通信機器）**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| パソコン、タブレット、スマートフォンなどを組み合わせて使った（使い分け） | 244 | 64.7% | 189 | 55.6% |
| パソコンのみ | 122 | 32.4% | 144 | 42.4% |
| スマートフォンのみ | 4 | 1.1% | 4 | 1.2% |
| タブレットのみ | 5 | 1.3% | 3 | 0.9% |
| いずれも自由に使えなかった | 1 | 0.3% | 0 | 0.0% |
| その他 | 1 | 0.3% | 0 | 0.0% |
| 合計 | 377 | | 340 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 5　春学期最終回と秋学期最終回における自宅での通信環境（インターネットへの接続環境）の比較**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| 春学期開始時から通信コストを気にせず、インターネットに接続できた | 334 | 88.6% | 321 | 94.4% |
| 春学期開始時からインターネットに接続できたが、定額で使えるデータ量に限りがあった | 28 | 7.4% | 0 | 0.0% |
| Wifi ルーターを大学から貸与されてから通信コストを気にせず、インターネットに接続できるようになった | 8 | 2.1% | 7 | 2.1% |
| 春学期最終回授業まで、自宅でインターネットを自由に使えなかった | 1 | 0.3% | 2 | 0.6% |
| その他 | 6 | 1.6% | 10 | 2.9% |
| 合計 | 377 | | 340 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 6　オンライン授業の課題のお知らせ受信、掲示板の確認、課題提出などに利用した Hoppii について**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| 最初からまったく不満なく利用できた | 26 | 6.9% | 52 | 15.3% |
| 使い方に慣れた後は不満なく利用できた | 252 | 66.8% | 230 | 67.6% |
| 使い方に慣れた後でも大いに不満があった | 16 | 4.2% | 10 | 2.9% |
| 使い方に慣れた後も不満が残り利用することに抵抗を感じた | 80 | 21.2% | 46 | 13.5% |
| その他 | 3 | 0.8% | 2 | 0.6% |
| 合計 | 377 | | 340 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 7　授業期間内における新型コロナウイルス（Covid-19）に関する情報収集状況**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| まったく無関心だった | 4 | 1.1% | 1 | 0.3% |
| ほとんど取集しなかった | 12 | 3.2% | 5 | 1.5% |
| どちらかといえば収集しなかった | 33 | 8.8% | 15 | 4.4% |
| どちらかと言えば積極的に収集した | 111 | 29.4% | 102 | 30.0% |
| かなり積極的に収集した | 146 | 38.7% | 150 | 44.1% |
| これ以上ないほど積極的に収集した | 71 | 18.8% | 67 | 19.7% |
| 合計 | 377 | | 340 | |

表中単位は「回答者数（人）」

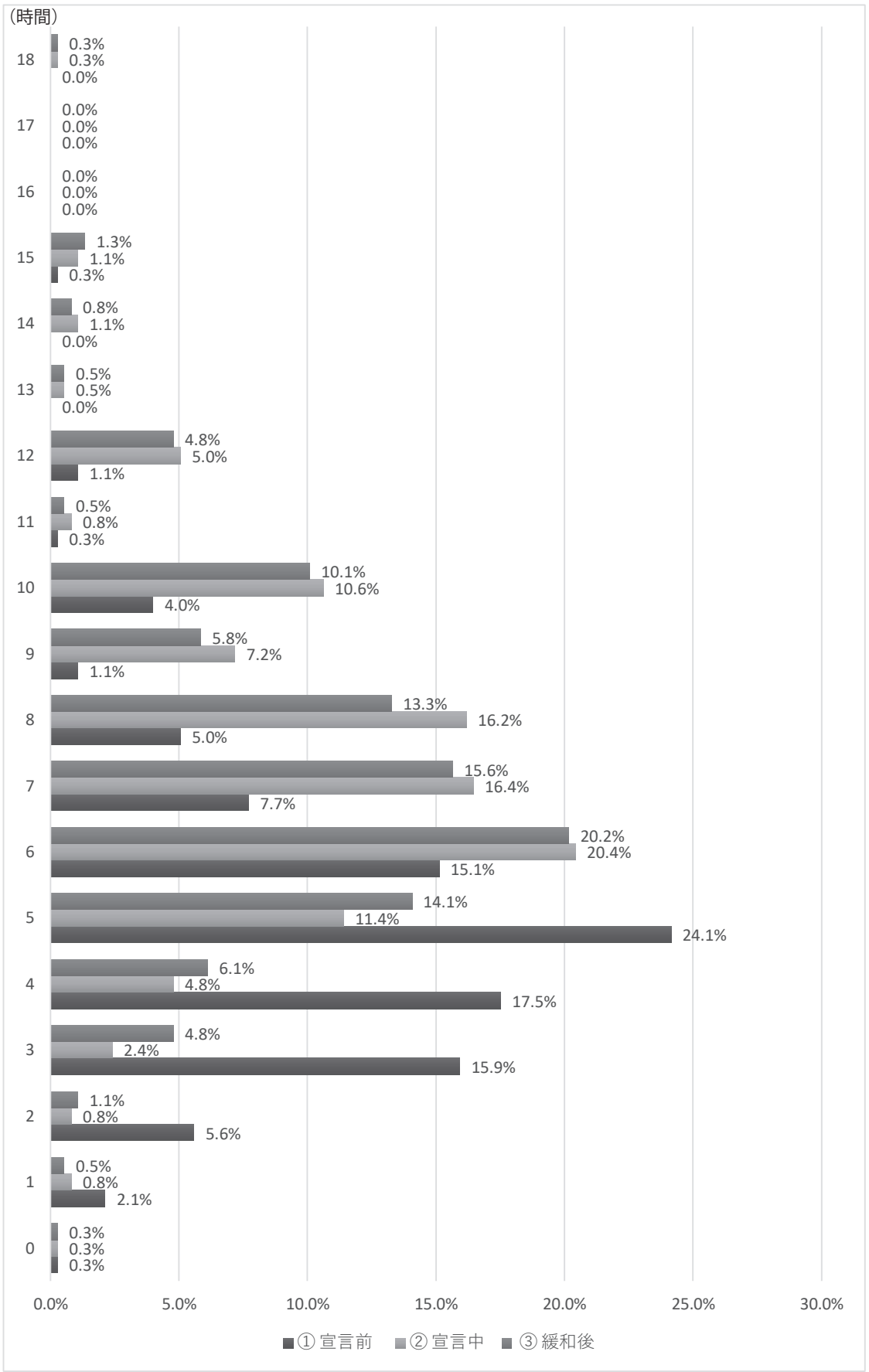


**図３　課題作成のためにインターネットを利用した一日当たりの平均的な時間の比較**

**表 8　一回のオンライン授業（課題作成も含む）に対して費やした時間**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| 3 時間以上 | 85 | 22.5% | 154 | 45.3% |
| 1 時間～ 2 時間程度 | 276 | 73.2% | 175 | 51.5% |
| 30 分以上 1 時間未満 | 14 | 3.7% | 11 | 3.2% |
| 30 分未満 | 1 | 0.3% | 0 | 0.0% |
| その他 | 1 | 0.3% | 0 | 0.0% |
| | 377 | | 340 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 9　春学期のオンライン授業において困った事**

| | 困ったこと | 問題なし | 合計 |
|---|---|---|---|
| ［① 授業の開始日時や課題提出期限などのスケジュール管理、タスク管理が難しかった］ | 256<br>81.3% | 59<br>18.7% | 315 |
| ［② リアルタイム授業についていくのが大変だった］ | 190<br>60.3% | 125<br>39.7% | 315 |
| ［③ 学習支援システムをうまく使いこなせなかった］ | 150<br>47.6% | 165<br>52.4% | 315 |
| ［④ Google Classroom や Zoom などのシステムやアプリを使いこなすのが難しかった］ | 163<br>51.7% | 152<br>48.3% | 315 |
| ［⑤ 動画視聴の授業だと、視聴を後回しにしてしまい、視聴期間が過ぎてしまう、課題に取り組めないなどの支障があった］ | 84<br>26.7% | 231<br>73.3% | 315 |
| ［⑥ 課題が多くて、大変だった］ | 290<br>92.1% | 25<br>7.9% | 315 |
| ［⑦パワーポイント等の資料のみで内容を理解するのが難しかった］ | 214<br>67.9% | 101<br>32.1% | 315 |
| ［⑧先生に質問しづらかった、または先生とコミュニケーションが取れなくて大変だった］ | 217<br>68.9% | 98<br>31.1% | 315 |
| ［⑨パソコン作業が苦手で、課題の取り組みに時間がかかった］ | 168<br>53.3% | 147<br>46.7% | 315 |
| ［⑩ Zoom や Webex などを使用する授業でのカメラの使用に抵抗があった］ | 217<br>68.9% | 98<br>31.1% | 315 |
| ［⑪長時間、パソコンを使用することで疲労感が強かった］ | 260<br>82.5% | 55<br>17.5% | 315 |
| ［⑫通信環境（Wi-Fi 環境）が不安定だった］ | 137<br>43.5% | 178<br>56.5% | 315 |
| ［⑬生活リズムが乱れ、体調を崩した］ | 112<br>35.6% | 203<br>64.4% | 315 |
| ［⑭わからないことを気軽に友達に聞けないことが困った］ | 231<br>73.3% | 84<br>26.7% | 315 |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 10　春学期のオンライン授業において良かった事**

| | 良かったこと | 良くなかった | 合計 |
|---|---|---|---|
| ［① 学習支援システムで授業に関するすべての情報が見られるので、学習しやすかった］ | 186<br>59.0% | 129<br>41.0% | 315 |
| ［② 先生の声が聞き取りやすかった］ | 102<br>32.4% | 213<br>67.6% | 315 |
| ［③ 資料（データ）が学習支援システムに掲載されるため、勉強しやすかった］ | 206<br>65.4% | 109<br>34.6% | 315 |
| ［④ 授業映像が繰り返し見られるので、学習しやすかった］ | 243<br>77.1% | 72<br>22.9% | 315 |
| ［⑤ 人とのコミュニケーション場面がなくなり、ストレスが減った］ | 87<br>27.6% | 228<br>72.4% | 315 |
| ［⑥ 自宅のため、通学の時間、ストレスがなくなり、疲労が減った］ | 224<br>71.1% | 91<br>28.9% | 315 |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 11　春学期において学生が適切だと思うオンライン授業の形式**

| | 思う | 思わない | 合計 |
|---|---|---|---|
| ［① オンライン授業ではなく、教室や体育施設での対面形式（直接向き合って行う従来の方法）の授業を受けたかった］ | 235<br>74.6% | 80<br>25.4% | 315 |
| ［② オンタイムの双方向形式（画面を通じてリアルタイムに受け答えができます）の授業を受けたかった］ | 83<br>26.3% | 232<br>73.7% | 315 |
| ［③ オンデマンド形式（録画した授業を指定された期間内でいつでも視聴できる）の授業を受けたかった］ | 247<br>78.4% | 68<br>21.6% | 315 |
| ［④ パワーポイントで作成された配布資料を見ながら音声解説を聞く形式（動画は無く教員の音声のみが聞ける）の授業を受けたかった］ | 133<br>42.2% | 182<br>57.8% | 315 |
| ［⑤ パワーポイントで作成された配布資料が動画で解説され、その録画を視聴する形式の授業を受けたかった］ | 193<br>61.3% | 122<br>38.7% | 315 |
| ［⑥ 授業の解説は全く無く、提示された課題を元に自学自習し、そのリポートを提出する形式の授業を受けたかった］ | 25<br>7.9% | 290<br>92.1% | 315 |
| ［⑦ 授業の解説は全く無く、提示された課題を元に自学自習で完結する形式の授業を受けたかった］ | 22<br>7.0% | 293<br>93.0% | 315 |
| ［⑧ どんな方法でも良い］ | 36<br>11.4% | 279<br>88.6% | 315 |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 12　春学期を経験した学生が適切だと思う視聴型のオンライン教材の視聴時間**

| | | |
|---|---|---|
| ① ～ 30 分 | 50 | 15.9% |
| ② ～ 45 分 | 91 | 28.9% |
| ③ ～ 60 分 | 140 | 44.4% |
| ④ ～ 75 分 | 26 | 8.3% |
| ⑤ ～ 100 分 | 6 | 1.9% |
| ⑥ 本来の授業時間以内ならどれでも | 2 | 0.6% |
| 合計 | 315 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 13　学生が適切だと思うオンタイム形式のオンライン授業時間**

| | 春学期を終えて | | 秋学期を前に | | 秋学期を終えて | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① ～ 30 分 | 19 | 6.0% | 39 | 10.3% | 16 | 4.7% |
| ② ～ 45 分 | 56 | 17.8% | 80 | 21.2% | 65 | 19.1% |
| ③ ～ 60 分 | 164 | 52.1% | 189 | 50.1% | 203 | 59.7% |
| ④ ～ 75 分 | 52 | 16.5% | 49 | 13.0% | 48 | 14.1% |
| ⑤ ～ 100 分 | 23 | 7.3% | 18 | 4.8% | 7 | 2.1% |
| ⑥ 本来の授業時間以内ならどれでも | 1 | 0.3% | 2 | 0.5% | 1 | 0.3% |
| 合計 | 315 | | 377 | | 340 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 14　春学期を経験した学生が適切だと思うオンライン授業の課題作成時間**

| | | |
|---|---|---|
| ① 3 時間以上 | 12 | 3.8% |
| ② 1 時間～ 2 時間程度 | 159 | 50.5% |
| ③ 30 分以上 1 時間未満 | 131 | 41.6% |
| ④ 30 分未満 | 13 | 4.1% |
| | 315 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 15　春学期および秋学期を終えて、学生が適切だと思ったオンライン授業の形式**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| ① オンライン授業ではなく、教室や体育施設での対面形式（直接向き合って行う従来の方法）の授業を受けたかった | 210 | 55.7% | 204 | 60.0% |
| ② オンタイムの双方向形式（画面を通じてリアルタイムに受け答えができます）の授業を受けたかった | 18 | 4.8% | 29 | 8.5% |
| ③ オンデマンド形式（録画した授業を指定された期間内でいつでも視聴できる）の授業を受けたかった | 84 | 22.3% | 66 | 19.4% |
| ④ パワーポイントで作成された配布資料を見ながら音声解説を聞く形式（動画は無く教員の音声のみが聞ける）の授業を受けたかった | 12 | 3.2% | 4 | 1.2% |
| ⑤ パワーポイントで作成された配布資料が動画で解説され、その録画を視聴する形式の授業を受けたかった | 8 | 2.1% | 9 | 2.6% |
| ⑥ 授業の解説は全く無く、提示された課題を元に自学自習し、そのリポートを提出する形式の授業を受けたかった | 5 | 1.3% | 1 | 0.3% |
| ⑦ 授業の解説は全く無く、提示された課題を元に自学自習で完結する形式の授業を受けたかった | 5 | 1.3% | 1 | 0.3% |
| ⑧ どんな方法でも良い | 33 | 8.8% | 25 | 7.4% |
| ⑨ その他 | 2 | 0.5% | 1 | 0.3% |
| 合計 | 377 | | 340 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 16　春学期及び秋学期を終えて、本科目のオンライン授業に対する満足度**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| 大いに不満であった | 15 | 4.0% | 3 | 0.9% |
| ほぼ不満であった | 39 | 10.3% | 21 | 6.2% |
| どちらかと言えば不満であった | 83 | 22.0% | 57 | 16.8% |
| どちらかと言えば満足した | 135 | 35.8% | 141 | 41.5% |
| ほとんど満足した | 72 | 19.1% | 85 | 25.0% |
| 大いに満足した | 33 | 8.8% | 33 | 9.7% |
| 合計 | 377 | | 340 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 17　春学期及び秋学期を前に有する運動不足感の有無**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| 運動不足を感じている | 344 | 83.7% | 232 | 73.7% |
| 運動不足を感じていない | 65 | 15.8% | 82 | 26.0% |
| その他 | 2 | 0.5% | 1 | 0.3% |
| 合計 | 411 | | 315 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 18　春学期及び秋学期を前にしたコミュニケーション不足による精神的な不安の有無**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| はい | 174 | 42.3% | 153 | 48.6% |
| いいえ | 236 | 57.4% | 160 | 50.8% |
| その他 | 1 | 0.2% | 2 | 0.6% |
| 合計 | 411 | | 315 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 19　大学における「身体運動」「スポーツ」「体力」や「健康」に関する授業の必要性**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| はい、必要だと強く思います | 108 | 26.3% | 44 | 14.0% |
| はい、必要だと思います | 168 | 40.9% | 118 | 37.5% |
| どちらかと言えば、必要だと思います | 105 | 25.5% | 117 | 37.1% |
| わかりません | 7 | 1.7% | 15 | 4.8% |
| どちらかと言えば、不要だと思います | 18 | 4.4% | 15 | 4.8% |
| いいえ、不要です | 3 | 0.7% | 4 | 1.3% |
| いいえ、不要だと強く思います | 2 | 0.5% | 2 | 0.6% |
| 合計 | 411 | | 315 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 20　秋学期を前にした本科目への意欲（秋学期前）、春学期および秋学期における本科目への取り組み**

| | 春学期 | | 秋学期前 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| かなり強い意欲をもっていた | 64 | 17.0% | 39 | 12.4% | 63 | 18.5% |
| 強い意欲を持っていた | 155 | 41.1% | 123 | 39.0% | 142 | 41.8% |
| どちらかと言えばポジティブ | 121 | 32.1% | 127 | 40.3% | 104 | 30.6% |
| どちらかといえばネガティブ | 27 | 7.2% | 23 | 7.3% | 21 | 6.2% |
| ほとんど意欲がわかなかった | 9 | 2.4% | 3 | 1.0% | 8 | 2.4% |
| まったく意欲がわかなかった | 1 | 0.3% | 0 | 0.0% | 2 | 0.6% |
| 合計 | 377 | | 315 | | 340 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 21　春学期および秋学期における本科目への主体性**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| これ以上ないほど主体的に取り組んだ | 50 | 13.3% | 53 | 15.6% |
| かなり主体的に取り組んだ | 156 | 41.4% | 139 | 40.9% |
| どちらかと言えば主体的に取り組んだ | 128 | 34.0% | 109 | 32.1% |
| どちらかといえば主体的になれなかった | 35 | 9.3% | 28 | 8.2% |
| ほとんど主体的ににになれなかった | 7 | 1.9% | 10 | 2.9% |
| まったく主体的になれなかった | 1 | 0.3% | 1 | 0.3% |
| 合計 | 377 | | 340 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 22　春学期および秋学期において本科目の毎授業後のリポート提出期限（翌週の授業前まで）について**

| | 春学期 | | 秋学期 | |
|---|---|---|---|---|
| さらに延ばしてほしかった | 58 | 15.4% | 83 | 24.4% |
| その他 | 3 | 0.8% | 4 | 1.2% |
| 授業の当日にしてほしかった | 1 | 0.3% | 3 | 0.9% |
| 適切だった | 315 | 83.6% | 250 | 73.5% |
| 合計 | 377 | | 340 | |

表中単位は「回答者数（人）」

**表 23　秋学期において本科目で実施したオンタイムのオンライン双方向授業の満足度**

| | まったくそう思わない | そうは思わない | どちらかと言えば思わない | どちらかと言えば思う | そう思う | 強くそう思う | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 計４回実施された双方向授業は有意義だったと思うか？ | 5<br>1.5% | 7<br>2.1% | 38<br>11.2% | 134<br>39.4% | 115<br>33.8% | 41<br>12.1% | 340 |
| 双方向授業の回数は適切だったと思うか？ | 5<br>1.5% | 12<br>3.5% | 30<br>8.8% | 118<br>34.7% | 143<br>42.1% | 32<br>9.4% | 340 |
| 双方向授業の回数を増やした方が良いと思うか？ | 26<br>7.6% | 87<br>25.6% | 121<br>35.6% | 73<br>21.5% | 26<br>7.6% | 7<br>2.1% | 340 |

表中単位は「回答者数（人）」

表 16 ～ 23 に示した。

### 5. コンディション記録について

コンディション記録の効果を探る意図で行った結果は表 24 および図 4 に示した。

## Ⅳ　まとめ

居住形態および居住地について調査した結果，Covid-19 禍における外出自粛が要請された 4 月下旬において，23.1%の新入生が一人住まいだった。当時，こうした一人住まいの新入生を把握し一定の支援を差し伸べる手段が法政大学には用意されていなかった。特に，緊急事態宣言が発令された期間において近隣に友人がいないまま孤独な生活を強いられたと推察される一人住まいの学生が 5.8%存在していたことは無視できないデータと言えよう。このことから，授業で得た学生の情報を大学と共有できる方法を構築する必要性を確認できた。

インターネット接続環境およびオンライン授業に用いた各種デバイスの利用実態に関する調査結果から，ほとんどの学生がオンライン授業に対応できるインターネット通信環境を有していた一方で，自宅でインターネットを基本的に使えない学生が 1 名，インターネットに接続できるが，定額で使えるデータに限りがある学生が 61 名だった（表 2)。このことから，少なくとも来年度の授業に関しては，オンライン授業に支障を来さないためのインターネット環境を自宅に備えることを事前に周知すべきであろう。

オンライン授業の受容について調査した結果では，本学における LMS には改善の余地が多分にあることが示唆された。また，課題作成のためにインターネットを利用した時間を減少させる意図をもって秋学期のオンライン教材の視聴時間を短縮することを試みたが，結果的には課題作成に費やす時間を増加させてしまった（表 8)。また，秋学期のガイダンス時に調査した表 9 の結果では，春学期に履修した他科目におけるオンライン授業において困った事の上位 3 項目は，「⑥課題が多くて，大変だった（92.1%)」，「⑪長時間，パソコンを使用することで疲労感が強かった（82.5%)」，「①授業の開始日時や課題提出期限などのスケジュール管理・タスク管理が難

**表 24　秋学期において本科目で実施したコンディション記録の満足度**

| | まったくそう思わない | そうは思わない | どちらかと言えば思わない | どちらかと言えば思う | そう思う | 強くそう思う | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| コンディション記録は、自分の生活を振り返るきっかけになったと思いますか？ | 0<br>0.0% | 6<br>1.8% | 11<br>3.2% | 80<br>23.5% | 135<br>39.7% | 108<br>31.8% | 340 |
| コンディション記録は、将来の健康の保持増進行動に有益だと思いますか？ | 0<br>0.0% | 7<br>2.1% | 10<br>2.9% | 88<br>25.9% | 136<br>40.0% | 99<br>29.1% | 340 |
| 授業終了後もコンディション記録を個人的に継続しようと思いますか？ | 8<br>2.4% | 31<br>9.1% | 48<br>14.1% | 139<br>40.9% | 79<br>23.2% | 35<br>10.3% | 340 |

表中単位は「回答者数（人)」

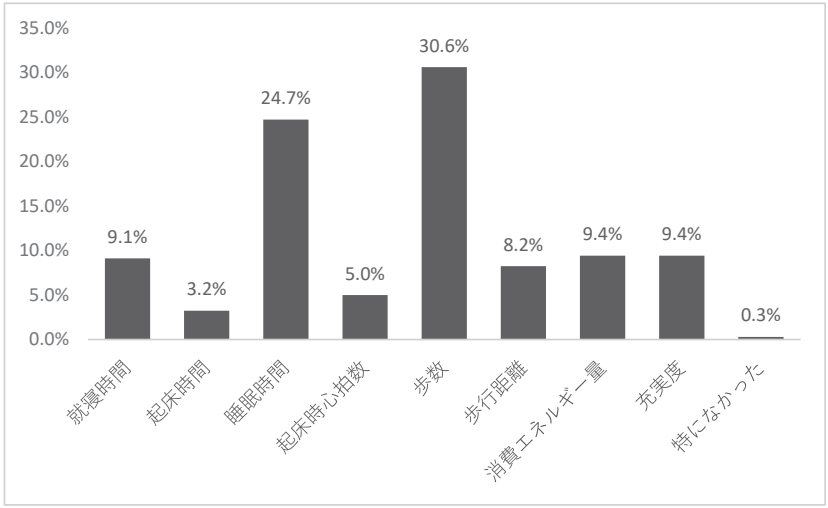


**図 04　学生が有益に感じたコンディション記録における指標**

しかった（81.3％）」であった。したがって，オンライン授業の課題を作成し，配信を行っていく場合の改善すべき課題が明らかになった。

表 10 に示された結果において，70％以上の高い割合を示した回答は，「④授業映像が繰り返し見られるので，学習しやすかった（77.1％）」，「⑥自宅のため，通学の時間，ストレスがなくなり，疲労が減った（71.1％）」であり，良くなかったことでは「⑤人とのコミュニケーション場面がなくなり，ストレスが減った（72.4％）」があり，すなわちコミュニケーションに対する積極的な関わりを求める傾向が示唆された反面，27.6％はむしろ人とのコミュニケーションによるストレスが増すという結果であったと言える。これらの結果は，今後のオンライン授業が有する陽と陰の可能性を示している。同様に学生が適切だと思えないオンライン授業の形式を改善することも今後のオンライン授業の構築する上で重要である（表 11）。特に，93.0％だった「⑦授業の解説は全く無く，提示された課題を元に自学自習で完結する形式の授業」および 92.1％の「⑥授業の解説は全く無く，提示された課題を元に自学自習し，そのリポートを提出する形式の授業」は避けるべきオンライン授業形式として，その方法を見直す必要性が非常に高いと言える。しかしながら，本科目に対して学生が強く要望する授業形式は，表 15 における春学期の回答 55.7％および秋学期の回答 60.0％からも明らかなように「①オンライン授業ではなく，教室や体育施設での対面形式（直接向き合って行う従来の方法）の授業」であることは否めない。

本科目が展開したオンライン授業に対する評価，満足度，および今後の意向に関する調査結果を比較すると，春学期における不満の割合は秋学期に減少していた。しかしながら，運動不足やコミュニケーション不足の解消を求める回答は多く，大学における「身体運動」「スポーツ」「体力」や「健康」に関する授業の必要性（表 19）はかなり高いことが示され，本科目に対する意欲や取り組む姿勢にも積極性が示された。また，春学期の調査結果を検証し，秋学期に実施した ZOOM による同時双方向ライブ型授業および ZOOM のブレイクアウトセッション機能を利用したグループワークは概ね好評であったと言え（表 23），今後のオンライン授業に欠かせない教材として，さらにその効果を高める授業展開方法を検討する必要があろう。

また，コンディション記録の効果を探るために行った調査の結果には，コンディショニング記録が自分の生活を振り返るきっかけになり，将来の健康の保持増進行動につながることを学生たちが理解したことが示され，オンライン授業における新たな双方向授業の可能性が示唆された可能性がある。

本稿の執筆時点において，Covid-19 の感染者数の収束の兆しは未だ見えず，対面式授業を推進する教員には，オンライン授業が来年度以降も継続される可能性があることに懸念を示す向きもある。

山崎（2020）が述べているように，大学運営や学生生活を含む大学というシステムの全体を，オンライン授業という新しい形態を組み込んでどのように機能させていくかが，ようやく議論の緒についたと言っていいだろう。そして，Covid-19 によって受けた大学教育の既存のシステムは，オンライン授業の大規模な実施の中でトライ＆エラーを繰り返しながら新しい大学教育の姿を模索することが，教員・学生の双方に求められることになったのも事実である。

特に，本科目に欠かせないと考えられてきたスポーツ活動を含む実技・実習を伴う対面式授業において，それが実施困難となった状況下でオンライン授業に舵を切った結果，対面式授業で得られなかったメリットを認識できたことも事実である。藤木（2020）は，いわゆるオンライン環境での授業運営が日常化しているアメリカの場合，体育授業に関しても対面式以外の様々な履修方法が何年も前から用意されていることを論文の中で紹介している。卒業後に社会に巣立つ学生を前にして，高等教育機関である大学における保健体育科目で何を学ばせるかの議論は大変重要である。集団スポーツ活動を通じて社会性や協調性を学ばせる意義は，もちろん理解しているが，スポーツ種目の実践のみに固執した対面式授業には違和感があるだけでなく，教育の次元がそれとは全く異なると言える。また，対面式授業のメリットとは別に表 10 の⑤に示された 27.6％の背景には，人との交流に馴染めず，コミュニケーションを避ける傾向や好まない学生，身体に障害を有する学生の存在が考えられることから，むしろオンライン授業を求める可能性が高いのかもしれない。今後も学生が有するこうした異なる視点を配慮し，オンライン授業の可能性を幅広く議論するために資する基礎資料の作成に取り組んでいきたい。

## 文献

文部科学省（2020）大学等における後期等の授業の実施方針等に関する調査結果（地域別）．大学・大学院・高専に関する情報，https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf（参照日 2021 年 1 月 18 日）

文部科学省（2020）新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況．大学・大学院・高専に関する情報，https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf（参照日 2020 年 10 月 31 日）

山崎隆之（2020）香川大学生のオンライン授業に対する評価と今後の意向（その 1）．香川大学経済論叢，93（3）：99-125.

藤木大三（2020）リモート形式による体育授業に関する一考察：本学部 1 年「体育」授業における試みについて．教育学論究，12：89-97.